

令和4年度 青梅市立今井小学校 自己評価シート(報告書)

自己評価集計

| | |
|------|---|
| 教育目標 | 1 思いやりのある子 2 自ら学び考える子 3 心身ともに健康な子 |
|------|---|

| | |
|--------|--|
| 目指す子供像 | 1 たくましさと優しさを持ち、誰かのために行動できる子供 2 学習を自ら計画し、振り返り、仲間と共に高め合うことができる子供 3 健康的な生活習慣を獲得するとともに、困ったときに誰かに相談できる子 |
|--------|--|

| | |
|--------|--|
| 目指す教師像 | 1 授業力や専門性を向上させようと意欲あふれる教師 2 子供一人一人に寄り添い、優しさと厳しさを併せもつ教師 3 自身のライフワークバランスを考慮し、やりがいをもって働く教 |
|--------|--|

| | |
|--------|---|
| 中・長期目標 | 1【豊かな心】人権尊重教育の推進。いじめの防止。集団中での活動を通して他者の気持ちを想像し行動できる子供の育成 2【学力向上】単元を通して子供が身に付ける資質・能力を明らかにした学習展開。ICT活用による個別最適化と協働的な学習の推進。子供が自ら計画して実行する家庭学習。 3【心身の健康】体力・運動能力の向上を図り、日常的に運動に親しむ態度の育成。教育相談機能の向上と子供がいつでも相談できる環境の整備。 4【家庭・地域との連携・協力】充実した広報活動と開かれた学校づくり。地域・保護者との協働的な学習。「霞川学習」の推進 5【教師の働き方の改革】児童とかかわる時間、授業準備の時間を確保し、教育の質の向上のための働き方改革の推進。 |
|--------|---|

| | | | | |
|-----|---|--------|---|-------|
| 達成度 | 4 | ほぼ達成 | A | 85%以上 |
| | 3 | おおむね達成 | B | 70%以上 |
| | 2 | 変化の兆し | C | 60%以上 |
| | 1 | 不十分 | D | 60%未満 |

| 項目 | 重点項目 | 昨年度までの現状と課題 | 目標 | 番号 | 重点評価項目 | 達成度 | | 最終評価 | 評価方法 | 考察及び次年度への課題と改善策 | |
|---------|-----------|---|------|----|---|-----|-----|------|--|---|---|
| | | | | | | 自己 | 関係者 | | | | |
| 豊かな心の育成 | 挨拶の励行 | ・挨拶を返すことができる児童は増えてきている。関わりの深い教職員だけでなく子供同士や来校者などにもすすんで挨拶のできる児童の育成が課題である。 | 取組目標 | 1A | すすんで挨拶ができるように指導を重ね、児童の主体的な取り組みの計画を立て実践する。職員が率先垂範する。 | 3.2 | 3.5 | B | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 児童が場や状況に合わせ、すすんで挨拶ができるように指導した。校長自らが毎朝正門に立ち、児童に指導するだけでなく、各学期に1回は挨拶にかかわる話を朝会時に行った。児童のアンケート結果では、92%の児童が挨拶について肯定的な評価を示している。一方、代表委員会が年2回実施した「あいさつ運動」では、児童同士の挨拶が不十分であるという結果が見られた。また、保護者のアンケートから、児童が地域で挨拶をする機会が減っている傾向が見られた。学校の教職員に向けた挨拶だけでなく、地域の方々や児童間で挨拶が推進できる取組を進める | |
| | | | 成果目標 | 1B | 児童が場や状況に合わせ、すすんで挨拶をしている。 | 3.2 | | | | | |
| | いじめの防止 | ・いじめ調査におけるアンケートの結果からは、大きな事案は発生していない。児童が教育相談室を活用する頻度が少ない。 | 取組目標 | 2A | 重大ないじめの未然防止のため、職員で協力し組織として早期発見・早期対応に努める。全教育活動を通して人権意識を高める。 | 3.5 | 3.5 | | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | | 児童が思いやりの気持ちを持ち、自他ともに大切にしようとする心情を育ててきた。道徳でいじめについて考える時間を設定するとともに、日常の教育活動全般で人権意識を育む指導を行った。いじめの防止策としていじめ調査を年間4回児童に実施した。保護者・児童から訴えたがあったものは教育委員会に即時報告し、組織的に対応した。訴えがあったものは現在解決しているが、児童のアンケートから3%弱の児童が家庭や教員に相談ができないという結果が出ている。訴えがあった児童への継続的な見守りとスクールカウンセラーを活用した指導体制の強化を行うことで、いじめの未然防止に努める |
| | | | 成果目標 | 2B | 児童が思いやりの気持ちを持ち、自他共に大切にしようとしている。 | 3.4 | | | | | |
| | 異年齢活動 | ・コロナ禍において、計画されていた縦割り活動が十分に実施できなかった。行事において一人一人が目標を持ち、計画を立て、より良い活動のために振り返る活動を充実させる必要がある。 | 取組目標 | 3A | 全校縦割りのなかよし班活動を充実させ、円滑な活動ができるように支援する。 | 3.4 | 3.7 | | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | | なかよし班での縦割り活動を、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえて、内容を精選・工夫しながら計画通りに実施することができた。活動に対する自分自身の目標やめあてを設定し、終了後に振り返るという活動を通し、発達段階に応じた異学年集団での児童一人一人の更なる成長を目指す。 |
| | | | 成果目標 | 3B | 児童がなかよし班で自分の役割を意識したり、仲良く活動したりしている。 | 3.3 | | | | | |
| 学力向上 | 資質・能力を学習実 | ・全国学力学習状況調査の結果が、全国・東京都の平均値より下回っている。C層の児童が多い。知識の活用と、定着に課題が残る。 | 取組目標 | 4A | 単元を通して身に付ける子供の資質・能力を明らかにし、週案に記載するなど意図的・計画的に指導と評価の一体化を図る。 | 3.2 | 3.4 | B | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 学習した内容を8割以上定着させることを目標に取り組んできた。児童のアンケートから、9割以上の児童が学習の達成度に対し肯定的な回答をしている。半面、保護者、教師からは改善は見られるものの、基礎基本の定着はまだ不十分であるという回答も多くあった。アフタースクールや放課後のステップアップクラスに参加している児童は、東京ベーシック・ドリル等の基礎基本の問題に繰り返し取り組むことで、参加をしていない児童より知識が定着している結果が得られている。中学校への学びの接続を意識し、必要な学習内容を定着させるための家庭学習を推進する | |
| | | | 成果目標 | 4B | 8割以上の子供が、評価規準に達し、単元の形成的評価において平均85%達成している。 | 2.7 | | | | | |
| | ICTの活用 | ・一人1台の端末を活用した学習を展開することができた。また、大型提示装置も活用頻度は高い。有効な活用方法を今年度も模索していく。 | 取組目標 | 5A | ICTを活用した「伝え合う活動」「振り返り活動」を重視した授業改善に努め、主体的に学習に臨む態度を育てる。 | 3.1 | 3.3 | | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 一人一台端末として「Chromebook」を学習用具として児童が使用し、学習したことを整理したり深めたりすることができるようにした。専科教室にも電子黒板を整備し、日常的にICT機器を活用した授業に取り組んでいる。アンケートでも、95%の児童がICT機器の使用に対して肯定的な回答を示している。しかし、学級によって活用状況に差が見られるので、ただICT機器を使用する段階からより効果的に学習に生かすことができる活用方法になるよう、研修を重ねていく。 | |
| | | | 成果目標 | 5B | 週に3回以上はICT機器を学習用具として使い、自身の学習を整理したり、深めたりしている。 | 2.9 | | | | | |
| | 家庭学習の習慣化 | ・学年×10分間以上を目標とした家庭学習の取り組みに対する肯定的な保護者評価は74%、児童は86%と両者の認識に差がある。数値的には改善傾向にある。ただ、家庭学習の時間は、都や全国の平均と比べて低い傾向がある。 | 取組目標 | 6A | 家庭学習頑張り週間、家庭学習の手引きの活用を促す等家庭学習の時間を確保できるように児童や家庭に啓発する。長期休業中などにICTを活用し家庭学習との連携を図る。 | 2.9 | 3.5 | | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 保護者、教職員のアンケートからは、まだ家庭学習への取組が不十分であるとの回答が多い。各学期開始時に「家庭学習がんばり週間」を設定し、家庭学習の週間化と、自ら学ぶことができる児童となるよう、児童の家庭学習に対する意識改革を目指し推進した。興味・関心に基づいた学習だけでなく、目標をもって計画的に今自分に必要な学習をすることができる児童はまだ少ない。中学校への学習に向け、児童が自ら計画し、学ぶことができるよう、家庭学習を充実していく。 | |
| | | | 成果目標 | 6B | 児童の家庭学習の取り組みが100%となり、家庭学習が習慣化している。児童が自己の課題をつかみ、その解決のために主体的に家庭学習に取り組んでいる。 | 2.8 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|---|------|-----|---|-----|-----|--|--|---|
| 健康な身体 | 体育的 充実 活動の 実 | ・コロナ禍において、実施できなかった体育的活動が多かった。令和3年度の新体力テストの結果は、全国・東京都の平均値からは劣っている。 | 取組目標 | 7A | 体力向上のために体育の授業を工夫し、休み時間や放課後に運動に親しむ児童の育成を図る。 | 3.1 | 3.8 | A | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、関係者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 新体力テストは、長座体前屈の結果のみ都の平均値を上回った。それ以外の種目は、都の平均値を下回る結果である。女子は反復横跳び・握力が都の平均値より低い傾向にある。今年度は、3年ぶりにマラソン週間を実施することができた。コロナ禍で制限されていた運動の機会を増やし、児童の体力向上に努める。 |
| | | | 成果目標 | 7B | 体力テストで、都の平均値をほぼ達成できている。または、休み時間に外遊びをする児童が増えている。 | 2.4 | | | | |
| | 新型 コロナ 感染 拡大 防止 | ・「今井小ガイドライン」を作成し、新型コロナウイルスの感染拡大対策に努めた。児童自らが感染予防に対する取り組みをすすんで実践できるように、意欲を高めさせる必要がある。 | 取組目標 | 8A | 「今井小ガイドライン」に基づき感染拡大防止の実行に努める。 | 3.4 | 3.8 | | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 新型コロナウイルス感染症拡大による学級閉鎖が2回あったが、学校でのクラスターは避けることができた。新しい生活様式も子供たちに定着している。今後は教育委員会と連携し、感染症の拡大状況を考慮しながら、子供たちの制限を見直し、学校行事や日常の学習活動を充実させていく。 |
| | | | 成果目標 | 8B | 手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンス等の新しい学校生活様式を意識し、実践している。 | 3.5 | | | | |
| | 生活 習慣 の 見 直 し | ・全国平均値に比べ、児童がテレビやゲーム・スマートフォン等の電子メディアに触れる時間が長い。 | 取組目標 | 9A | 健康的な生活習慣の確立を目指した指導を行う。SNS東京ノート等を活用し「今井小SNSルール」の定着を図り、メディアとの付き合い方を意識させる。 | 3.1 | 3.8 | | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 高学年児童でSNSのトラブルが1件あった。来年度は0を目指し、児童に繰り返しSNSとのかかわり方について指導していく。また、今井小学校の児童はテレビやYouTubeの視聴時間、ゲームで遊ぶ時間が他校と比較して長いことがアンケート結果から分かった。子供たちに持たせているゲーム機やスマートフォンに制限をかけていない家庭があることもアンケートより把握できた。安全で健全なメディアとの付き合い方を学校から家庭に継続して啓発していく。 |
| | | | 成果目標 | 9B | 今井小SNSルールや家庭での約束を意識した生活ができていく。 | 2.9 | | | | |
| 地域・ 家庭 の 連 携 | 学校 広 報 の 充 実 | ・コロナ禍において、保護者・地域の方が学校に來校する機会が減少している。PTA活動はオンラインに移行し、活動を再開した。 | 取組目標 | 10A | 学級・学年だより、面談、電話連絡、HP等で児童の様子を積極的に伝える。 | 3.5 | 4 | B | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 今井小学校ホームページの「校長ブログ」で、毎日学校の児童の様子を配信した。学校運営連絡評議会委員をはじめ、地域からも好評である。教職員からは、保護者にもっと自身の子供や学校教育に関心をもってほしいと願う声強い。保護者会の内容を見直し、保護者の学校への関心を高められるように改善していく。 |
| | | | 成果目標 | 10B | 学校の情報が適切に伝わり、保護者が教育活動に関心を寄せ、学校と協働している。 | 2.8 | | | | |
| 教師 の 働 き 方 の 改 革 | 児童 と か か わ る 時 間 の 創 造 | ・定時時間外の労働時間は減少している。ゼロに近付けるためには、さらなる工夫が必要である。 | 取組目標 | 11A | 会議の効率化、ペーパーレス化、伝達事項のオンライン化を推進し、児童とかかわる時間と授業準備の時間を生み出すように努める。 | 3.4 | 3.5 | 教員の取り組みの記録 児童の行動観察、行動・学習の記録 児童アンケート、保護者アンケートの関連項目から(85)%以上の肯定的評価 | 教職員の平均定時外勤務時間が30時間を下回り、成果が出ている。来年度は教育計画をPDFで共有する等、ペーパーレス化を始めとする改革に努める。教職員からは、取組目標に対する肯定的な評価が100%、成果目標に対する肯定的な評価が94%であった。共に100%になることを目指し、教師と子供たちがかわる時間と授業準備の時間を生み出すことができるようにする。 | |
| | | | 成果目標 | 11B | 児童の教師とかかわる時間が増え、共に活動したり、相談に乗ったりしている。 | 3.2 | | | | |